神恵内村における新たな養殖業の確立

― キタムラサキウニ12月出荷の取り組み ―

後志総合振興局
後志地区水産技術普及指導所

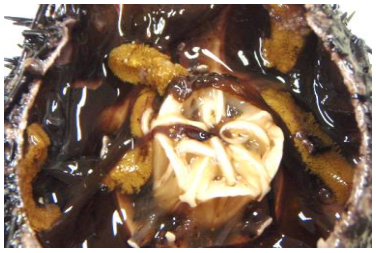
磯焼け漁場の空ウニを種苗として利用

キタムラサキウニ　⇔　食害による磯焼け持続要因の一つ

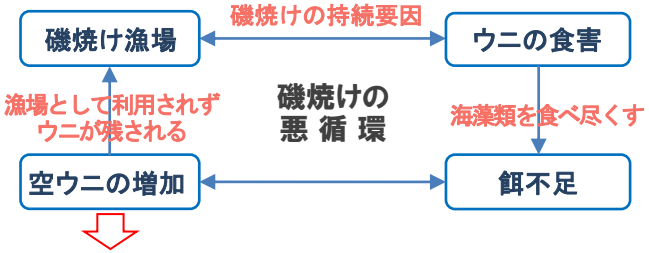
～ ウニ養殖に係る経緯 ～

- ○2014年　岩内漁港にて簡易的な養殖試験を実施
- ○2015年　円筒形の養殖カゴで基礎データを収集
- ○2016年　神恵内村でウニ養殖に関わる説明会を開催
  →その後、ウニ養殖部会を設立し養殖を開始
- ○2017年　水研機構北水研で受講した長期研修により
  産卵後の身入りの回復を科学的に証明
- ○2019年　基本的な養殖技術を習得した後、神恵内村
  で独自に技術改良が進められ、現在に至る

本来、身入りしない時期に身入りさせる！



右：給餌試験により産卵直後でも身入りすることを実証
左：通常、天然個体では産卵後の身入が回復していない
（いずれも2014.12.16日に撮影）



地域によっては駆除対象！↔低コストな種苗の確保

◆継続してキタムラサキウニを取り除くことで
海藻群落の回復も期待！

北海道神恵内村産

《真冬の生うに》

12~2月 | 冬季限定

※写真提供：神恵内村役場

― 各種試験の実施 ―

- ウニ採取時の取り扱い（大きなへい死要因）
- 養殖カゴ内の飼育密度試験
- 給餌間隔試験
- 給餌開始時期別試験
- 餌料別給餌試験
- 飼育期間中の水温の把握
- 官能評価（食味試験）
- 試験販売による市場動向の把握　　など

漁港内における安心・安全な操業の実現

○冬季の日本海沿岸は時化が多く、ほとんど出漁できない月もある。
○漁港内の養殖業の実現により、天候に左右されず計画的な安定生産が可能。
○高齢の漁業者でも漁港内で安心・安全な操業に従事できる。

新たな養殖業の確立、新たな雇用の創出

○漁港内で安定して水揚げすることで冬期間の収入を確保できるようになった。
○年齢にかかわらず、ウニ剝きなど熟練の技術や経験を生かした雇用の場を提供。
○国産ウニの端境期で、品薄の時期に出荷することにより高単価が期待できる。